

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100090		
法人名	有限会社ヴァントーズ		
事業所名	グループホーム ヴィエント		
所在地	矢板市片岡1174-2		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分に合ったペースで自分らしく家庭的な生活を安心して過ごせるように、温かい心で寄り添いながら支援に努めさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の玄関を入ると、ホールを中心に左右にグループホームと小規模多機能事業所が配置されていて、スタッフルームも双方に出入りできるよう工夫され利便性が図られている。近隣は人家が疎らで自然が残っており、建物は南側が大きく開けていて、日光が降り注いで室内も明るく開放的な雰囲気を漂わせている。開設して2年目ではあるが、運営推進会議への地域住民の参加や、多数のボランティアの訪問、昼食のおかずを地元住民に依頼して作ってもらうなど、地域に根付いた事業所運営を目指して積極的な取り組みを行っている。職員は、入居者にゆったりとしたペースで楽しく生活してもらうため何事にも急かせることなく、出来る限り入居者に寄り添う形でケアに臨んでおり、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら、その人らしさを大切に生活支援」という理念の実践が図られていることが窺える。今後は、事業所の有する機能を地域に還元するような新たな事業にも取り組んで、その地域に欠かせない存在になっていくことを期待したい。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成25年2月20日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり、いっしょに、一人一人のその人らしく生活を送れるよう支援に努めるという理念を共有して安心して過ごせるよう努めている	『「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」その人らしさを大切にした生活支援』という理念に基づき、職員は入居者のゆったりとした生活ペースにあわせて、出来る限り側に寄り添う形でケアに臨んでいる。新規入職者にはリーダーが1ヶ月程度同行して、理念に則った支援を身に付けてもらうよう指導している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方を積極的に受け入れている。納涼祭にも近所の方にも参加して下さるよう声掛けをしている。近所に外出、外食、出前などを取り地域とのつながりを大切にするよう努めている	地域のボランティア団体が幾つかあり、歌や踊り、手品などに毎月訪れてくれるので、入居者は一緒に楽しい時間を過ごしている。併設事業所と合同で夏に開催される納涼祭にも、近隣住民が参加する他、職員と入居者が近くのスーパーに買い物に出たり、時には隣の飲食店から出前を取って食事をする等、地域との関わりを深める取り組みを行っている。	開設から2年目となり、地域での認知度も上がってきているので、今後は事業所の機能を地域に還元するような、より積極的な地域連携の取り組みなども検討していくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時にグループホームの入所への質問等がありその都度質疑応答している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者に合ったサービスの実施を報告し意見を頂いている。納涼祭にボランティアとして参加して頂いたりその時々アドバイスをさせていただいている	年6回、併設されている小規模多機能事業所と合同で、市担当職員・地域包括支援センター職員・区長・民生委員・家族代表が集まり、情報交換や運営についての話し合いを行っている。地域のボランティア団体を紹介してもらったり、外出先の情報を得たり、地域からの委員に介護制度に対する理解を深めてもらうなど、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に市役所には足を運び、事業所の実績を伝えるように努めている。不明な点などにも相談に乗っていただいている	市担当職員はほとんど毎回運営推進会議に出席しており、運営や入居者の状況等を伝えると共に助言や指導などをもらっている。入居者や家族が抱えている課題や制度上のことなどについても、主にケアマネージャーが市担当課に赴いて相談するなど、連携が十分図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>見守りを重視し利用者様の訴えに早く気づき個別対応することを心掛け身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止マニュアルは作成済みで、職員の勉強会も実施して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。帰宅願望の強い入居者が数名いるため、午後は不穏になったり玄関近くに行ってしまうことも度々あるが、制止することなく、見守りや職員が根気良く寄り添うことで対応している。また、ベッドから落ちることが多くなった入居者について、本人や家族の意向も十分聞いた上で、職員の迅速な対応が出来る部屋に移動するとともに、身体拘束に当たるベッド柵をするのではなく床に布団を敷いて寝起きしてもらい、事故防止に役立っている例がある。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者様と家族間の声に耳を傾け虐待を見過ごすことのないよう努めている</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターと連携を持ち支援の必要な方には利用できるよう支援に努めている</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者とケアマネージャー2人対応にて十分な説明を行い理解・納得をして頂けるよう努めている</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に意見、要望を聴けるよう努めている。また、必要に応じて電話にて意見、要望を聴けるよう努めている</p>	<p>通院の付き添いや面会のために家族が事業所に来る機会が結構あるので、その際に家族からの意見や要望を聞き取るよう努めている。職員が入居者の対応に気を配っているつもりでも、家族からすると十分でないということなども懸念されるので、きちんと話しを聞いて職員間で共有してその後のケアに反映できるよう配慮している。</p>	<p>介護事業所の運営については、出来る限り情報発信をして、運営内容をオープンにすることが求められる時代であり、事業所と家族の関係を深めて互いに意見交換をしやすい状況を作り出すためにも、定期的な通信の発行や職員名の掲示等に取り組むことが期待される。</p>
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定例会議を通して直接意見交換が出来るよう努めている</p>	<p>毎月定例会議を開催し、施設長を含め夜勤以外の職員がほとんど全員参加して、行事・利用者状況・運営改善等について、1～2時間の時間をかけて活発に意見を述べあっている。ケアマニュアルの見直しまでには至らないが、脱衣所の手摺りの増設など生活環境の改善や日常的な支援方法の質の向上を目指した提案・検討が熱心に行われている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	査定方式を取り入れ、面談を行うなど職場環境・条件の整備に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の事業所見学や勉強会・研修会に参加している。また、資格取得を推進している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会・研修会・交流会に参加している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人にお会いし話をしコミュニケーションを取りながら関係を築き不安をなくすよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にお会いし話を聴いたり、電話を利用するなどコミュニケーションをはかり関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で必要としている支援を見極め必要に応じた対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の事や生活の知恵を教えていただいている。食事を一緒に作ったり、食べたり又洗濯物をたたんだりしながら支え合いながら生活していると感じられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族としての立場も理解するように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方との交流は難しいが、写真を見ながら馴染みの人や場所の話をしている	家族や親族の面会は数多くあるが、入居者の年齢が高いことや身寄りのない方もいることなどから、知人や友人等の面会はほとんどない。入居者の持ち物やアルバムなどをきっかけにして、職員と入居者が昔話に興じることなどに止まっていることが多い。一方で、隣の小規模多機能事業所を以前利用していた入居者が、時々隣接事業所を訪れて、知人や職員と交流をすることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで一人一人できる事を活かしてできない人を手伝うなど支えるよう努めている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なかなかできていない状況ですが、必要時には対応できるようにしている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の事を一番に考えて検討していますが難しい事もある	入居者と十分意思疎通が出来ないことも多いので、日常の動きや態度・表情などから、職員が入居者の希望や意向を汲み取る努力をし、出来るだけ快適に過ごしてもらえように対応している。食事の下ごしらえや洗濯物たたみ、絵の得意な人にはカレンダー作りなど、入居者にはそれぞれ役割を果たしてもらっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく一方的にならないよう努めています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	積極的に支援に関わり現状の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームでの生活は、マンネリ化しやすいのでよく話し合っ作るように努力しています	家族の意向を中心に、定例会議・モニタリング結果・介護記録・サービス担当者会議等の資料を基に、ケアマネージャーが介護計画を作成している。ケアマネージャーは、入居者一人一人と時間をかけて向きあい話しを聞くように努めており、本人の状態の変化に伴って、適宜介護計画の変更を行い、適切なケアの実践に繋げている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常日頃共有しながら支援するよう努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えられるよう取り組むように努力している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	りんご狩りやもみじ狩り、花見に出かけた、出前を取ったり外食に出掛けている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族にお願いしていますが、必要に応じてかかりつけ医に電話や文章によるやり取りをしている。又、バイタル測定表も渡している	かかりつけ医への受診は、原則として家族の介助をお願いしている。その際、事業所での様子やバイタルデータを文書化して家族に渡している。診療の結果や薬の変更等については、家族から説明を受けており、不明な点があれば、ケアマネージャーが病院のソーシャルワーカーや薬局に問い合わせを確かめている。	医療や薬の知識は家族も十分持っているとはいえない。医療機関、事業所、職員、家族間の情報共有を密接にし、職員や家族の医療に対する知識が深まるような関係を築くことを期待する。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護師はいないが併設の看護師に相談するようにしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に訪問し確認しています。退院時にはカンファレンスに参加し、サマリー等から情報を得ています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながら支援していけるよう努めている	現在の事業運営の体制では、「入居者が重度化し、医療の必要性が増した場合、かかりつけ医と相談して入院等の措置を採ってもらう」との方針であり、家族にもそのように説明している。関係法人や法人全体では、那須赤十字病院の地域医療連携室を通して、重度化した場合や終末期について、勉強会の講師を依頼している。	家族や本人は、なるべく長くグループホームで介護を受けたいという希望がある。家族も重度化や終末期になると、どのような状態になり、どのような処置が必要なのか分からないことも多いと思われる。事業所としても必要な知識を習得し、家族とよく話し合って、納得のいく終末期を迎えられるように努めて欲しい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを全ての職員が確認し、定期的に救急救命法の講習を受けている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域との協力体制を築くよう努めている	年2回の消防・避難訓練を実施している。長崎市のグループホーム火災事件を受けて、「スプリンクラーは既に設置されているが、何よりも火事を出さないよう気をつけることが大切である」ことを、改めて職員間で再確認した。また、消防署の緊急点検があり、避難路に物を置かないことや防災加工の敷物を使用するなどの助言を受けて、対応を行った。またコンセント付近からの出火に注意することも、職員間で確認しあった。	直近の運営推進会議でも、事業所の防火体制について説明をしているが、火災を含め、災害等緊急時には近隣の住民の協力が欠かせないので、今後も運営推進会議を活用して近隣の理解と協力を得る努力をし、避難訓練等にも参加してもらえような関係づくりに努めて欲しい。また、実際の避難行動に結びつくような、訓練の積み重ねを期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けて声掛けをするようにしている	言葉遣いや声掛けの仕方を常々注意するように、定例会議や研修会等を通じて、施設長・管理者が職員を指導している。また、職員同士も気をつけて声を掛け合う関係を作るようにしている。帰宅願望の強い入居者が多いが、それぞれがなぜ、どこに帰りたいのか、思いを理解するように心がけ、共感を持って接するようにしている。	機嫌を損ねた入居者への対応で苦勞することもあるようだが、そのような場合も、声掛け等に配慮することを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをし話を聴くようにし自己決定できるよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望を聴いて対応するように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、できるだけ声掛けし行うようにしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカットなど一緒に行っている。時には味付けや味見をして頂いている。	昼食は近所の人に委託しておかずを作ってもらっているが、火曜日と木曜日の昼食および朝食と夕食は職員がメニューを考え調理している。入居者が下ごしらえを手伝ったり、食材の買い出しに同行することもある。おはぎやまんじゅう、七草がゆ、しもつかれ等を入居者と一緒に作り、行事食を楽しんでいる。パンの移動販売が訪れるので、入居者に好きなパンを買ってもらって、「選んで買う」楽しみの機会を作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ないときには、声掛けなどしながら勧めている。また、利用者用に合った食器など状態に合わせて使い分けている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に毎食後口腔ケアをして頂いている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に排泄パターンを把握して自立に向けて支援している。出来るだけトイレで排泄できるよう努めている	入院で体調を崩した入居者を除き、排泄はトイレでできている。自律的な排泄を損なわないために、夜間の排泄行動を尊重して、入居者が起きあがるたびに見守り介助している。夜間は特に転倒などの危険もあるため、布団につけた鈴の音に注意して、すぐに介助出来るようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトやヤクルトを召し上げて頂き、運動をするよう心掛けています		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ入浴時間など本人の意見を尊重している	週3回、午後に入浴を実施している。車椅子を利用している入居者は併設小規模多機能事業所にあるリフト浴槽を利用し、その他はグループホームの個浴槽で入浴している。定時の入浴以外にも、個人の必要に応じて血行促進や水虫の治療のための足浴を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整など本人に確認しながら調整するようにしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など理解するよう心掛け、症状の変化にも気を付けるようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、誇りに思っている事を話題にし本人の笑顔が沢山見られるように努めている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い出しや季節ごとに出掛けられるように、事前にきちんと準備して事故のないように努めている	入居者個人の希望にそった外出の機会は多くないが、季節や空模様を見て食材の買い出しに一緒に出かけたり、お菓子を買に行ったり、気分転換に近くを散歩することもある。また、受診の際に家族と外食をして戻る入居者もいる。季節がよいシーズンには外出行事を毎月企画し、帰途、入居者が希望する鯛焼きを買って帰るのが楽しみにしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお預かりし管理して必要時にお渡ししている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりできるように支援に努めている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の調整に心掛けるように努めている。手書きのカレンダーや写真の展示をし季節感を取り入れている	食堂兼居間には大きな窓があり、素通りガラスなので、外の様子がよく見え、天窓もあるため明るい。玄関ホールへつながる扉にも素通りガラスが嵌めてあり、玄関に人の動きがあると、帰宅願望のある入居者を刺激することもあるため、カーテンを閉めて見えないこともある。異食傾向のある入居者がいるために生花や観葉植物等を置いていないが、壁に大きなカレンダーや折り紙、行事の際の写真飾って、季節感を出している。居間には畳コーナーがあり、そこに座って洗濯物たたみをするのが好きな入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファ等を配置してつづげるように努めている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掛布団、写真、時計等使い慣れたものを使用して頂き居心地よく過ごして頂けるよう努めている	居室には全て掃き出し窓があって日当たりがよく、緊急時の屋外避難にも適している。部屋の入り口にはそれぞれ異なる花の写真が入ったプレートが掛けてあり、扉に入居者の名前を掲げて、間違いを防いでいる。ベッドや寝具、タンス等は各自が好みものを持ち込み、写真等が飾られている。ベッドからの転落を避けるために床に布団を敷いて寝ている入居者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を活かし常に見守って行くように努めている。安全な環境作りに努めている		